

## 令和5年5月 定例記者会見（報告）

1 日 時 令和5年5月31日（水）13時00分～13時30分

2 会 場 庁議室

3 出席者

<報道機関>読売新聞、山形新聞、さくらんぼテレビ、河北新報、置賜日報

<市>市長、秘書広報課長、政策企画課長補佐（情報システム）

4 記者クラブからの質問事項

- (1) JR米坂線の復旧費用が発表され、両県知事などからも費用負担に関する発言がありました。米沢市長として、米坂線の復旧方法、費用負担について、どのようにお考えでしょうか。
- (2) 米沢上杉まつり期間中の人出は21万5千人となり、昨年を2割ほど上回る数字となりました。一方でコロナ禍前の水準までは回復していない現状もあります。花見シーズン、ゴールデンウィーク期間中の観光客の入れ込み状況と、受け止めをお教えてください。
- (3) チャットGPTについて、今年4月に神奈川県横須賀市が全国で初めて業務への試験導入を行った他、県内では先日南陽市が導入を決定しました。市として今後、業務に活用するお考えはありますでしょうか。既にAIを活用している例があれば、併せてお教えてください。

(4) その他

5 内 容

○秘書広報課長

これより令和5年度5月の定例記者会見を開催いたします。本日の記者会見では、記者クラブからいただいた事前の質問に回答させていただき、質疑に入らせていただきます。よろしくお願いいたします。

○市長

今回のご質問は3点ありました。

まず1点目は、「JR米坂線の復旧費用が発表され、両県知事などからも費用負担に関する発言がありました。米沢市長として、米坂線の復旧方法、費用負担について、どのようにお考えでしょうか。」という内容です。

まず、災害復旧ということでありますので、可能であれば、基本的には予算も含めてJRの復旧工事の中で対応していただくのが本筋ではないかと考えております。本市としても、一日も早く全面復旧されるよう、本市の重要事業要望にも掲載しています。今後、JRや県・関係自治体の協議の場が持たれると思いますので、そうした中で、沿線自治体として議論していきます。また、JRが積算した86億円という復旧費用が示されておりますので、道路、河川など他のインフラの復旧事業もある中で、鉄道の復旧費を減らせないかという点も併せてJRや関係自治体と協議していく必要があると思っています。

2点目は、「米沢上杉まつり期間中の人出は21万5千人となり、昨年を2割ほど上回る数字となりました。一方でコロナ禍前の水準までは回復していない現状もあります。花見シーズン、ゴールデンウィーク期間中の観光客の入れ込み状況と、受け止めをお教えてください。」という内容です。

花見シーズンの入込状況については、花見の名所である松が岬公園の4月の入込数での比較となりますが、コロナ禍前の令和元年4月は10万2,868人、今年4月は6万7,815人であり、コロナ禍前の約66%となっています。また、令和4年4月の入込数は6万4,886人で、今年は、昨年と比較すると約105%となっています。

ゴールデンウィーク期間の入込状況については、コロナ禍前の令和元年是62万2,100人、今年は38万4,960人で、令和元年度の約62%となっています。また、令和4年の入込数は32万5,160人で、今年は、昨年の約118%となっています。

受け止めとしましては、昨年の同時期に比べると、上杉まつりや「道の駅米沢」を中心に県外から多くの観光客が見られ、人出は回復傾向にあります。コロナ禍以前までは戻っていない印象を受けています。なお、台湾などからの外国人観光客も見受けられるようになってきました。今後のインバウンドにも弾みをつけていきたいと思っています。

3点目は、「チャットGPTについて、今年4月に神奈川県横須賀市が全国で初めて業務への試験導入を行った他、県内では先日南陽市が導入を決定しました。市として今後、業務に活用するお考えはありますか。既にAIを活用している例があれば、併せてお教えてください。」という内容です。

結論から申し上げますと、活用していかなければならないと考えております。チャットGPT等の生成AIの業務利用については、先日、国の方針が示されました。主に「原則として要機密情報を取り扱うことはできないこと」「要機密情報を含まない場合であっても、利用にあたっては、承認を得る手続きが必要であること」の2点が総務省から関係省庁に周知され、その内容について国より地方自治体へも通知されています。

この通知を受け、本市においても「機密情報を取り扱うことはできないこと」「利用にあたっては所属長の承認が必要であること」とするルールを定め、5月10日付け

で庁内に通知しております。本市の考えとしては、生成A I を利用可能な業務の範囲は本市の業務全般とし、特に制限は設けないこととしております。

なお、生成A I は業務効率化に大きなメリットをもたらす可能性を秘めていると考えられる一方で、誤った情報の生成や著作権侵害、情報漏洩などの様々なリスクも伴うことから、生成A I を利用する際にはメリットとデメリットを十分に理解し、適切に活用することが重要と考えております。新たな技術を業務に活用することは非常に重要であるため、生成A I でどのようなことが可能になるのか、さまざま実験しながら有効な活用方法を見極め、本市としても取り入れていきたいと考えております。

「既にA I を活用している例があれば、併せてお教えてください。」という質問につきましては、これまでにA I を使った業務としては、生成A I ではありませんが、「A I - OCR」を活用し、手書き申請書のデータ入力の効率化等を令和3年度から実施しております。A I - OCRを活用した業務の内容は、印刷された一覧表や手書きの申請書等を、A I 機能を持ったスキャナー等で読み取り、帳票情報をデータ化するものです。A I 機能を持つことにより、従来の機器に比べて文字認識精度やレイアウト解析精度などが大幅に向上しています。

事前にいただいた質問に対する回答は以上です。

○記者

1点目について伺います。J Rは、担当者レベルでの協議・報告はあったのでしょうか。また協議の日程等に関するお話はあったのでしょうか。タイムスケジュールについて教えてください。

○市長

復旧に掛かる費用につきましては、直接J R東日本仙台支社長（※後にJ R東日本東北本部長に修正）から報告がありました。新潟支社からの報告等はありません。代表して仙台支社からではなかったのでしょうか。協議の日程に関する情報はまだ入ってきていない状況です。

○記者

J R新潟支社長の会見では、25日までに担当者同士の説明を終えていると言っています。市長はいつ仙台支社長からの報告を受けたのでしょうか。

○市長

担当者同士の説明については把握しておりません。仙台支社長（※後にJ R東日本東北本部長に修正）から報告を受けた正確な日付は定かではありませんが、新潟支社の発表がある前だったかと思えます。

○記者

2点目について伺います。上杉まつりの話題になりましたが、軍団行列のルートが変わったという点について、どのように受け止めているか教えてください。また、警察などの関係団体との話し合いに向けた動きなどはありますか。

○市長

非常に残念だと思っています。上杉まつりの軍団行列は、小学生の鼓笛隊がパレードをする場でもあります。ルートが短くなり編成が組みにくくなったことで、保護者や学校関係者も大変だったと思います。また、従前のルートであればより多くの人手があったのかなと思うと残念です。関係団体との協議については、可能な限り多くの地域を回ってパレードができるように、四季のまつり実行委員長として要請し、対応していきたいと思っています。

○記者

3点目について伺います。具体的に、どのような業務にチャットGPTが使われるのでしょうか。

○市長

活用する分野など詳しいことは担当職員からお話しますが、的確に文書整理ができるという面などがあるかと思っています。ただ、文書等にAIを活用するうえで、担当者の確認や文章への思い入れは必要かと思っています。

○政策企画課長補佐

具体的には、電話応答や窓口対応の分野でAIを活用していくという動きが加速していくのではないかと考えております。また、文書作成につきましては、適切なルールを周知して誤りのない文書作成ができるよう、業務効率化の一環として活用していく必要があるかと思っています。

○記者

その他について伺います。先日121号線で横断中の女性が亡くなる交通事故がありました。その場所ではないのですが、除雪車が通ったことで薄れている横断歩道が散見されるかと思っています。その点について、住民の声や市長の思いなどありましたら教えてください。

○市長

除雪による道路破損については、道路管理者によって毎年修繕がなされていると思っています。市道につきましても、きちんと作業を進めていかなければなりません。先日、米沢市交通安全推進協議会の総会でも、交通安全に関する事例が紹介され、交通事故に遭わないためにも識別できる横断歩道でなければならないと考えました。交通安全に取り組めるよう、行政でできるところはしっかりとやっていかなければならないと考えております。

○市長

前段の質問についてですが、4月18日にJR東日本東北本部長（※）が来庁されました。JR新潟支社の発表はその後であったと思います。

○記者

本日、チャレンジデーがありますが、これで終わります。今月はランアンドウォークもありました。このことについて市長の考えを教えてください。

○市長

本日は、ランアンドウォークの最終日で、チャレンジデーの日が重なりました。健

康長寿を目指していく上で、最も手軽な運動として、ウォーキングを推奨してまいりました。チャレンジデーは歩くことだけではなく、畑仕事などでも良いわけですが、高齢者の方々にとって、電話やFAXをするのは少し手間だったのかなと思います。これまでチャレンジデーに関わってきた本市としては、今回で終わりというのは少し寂しいなという気がします。

○秘書広報課長

これを持ちまして令和5年度5月の定例記者会見を終了いたします。